

ラチェティング戦略

オプションペイオフ戦略の成功要因はラチェティングと呼ばれる手法である。オプションペイオフ戦略の1つの欠点は大きなトレンドを作りそしてそのトレンドが反転したときにそれまでに得た利益をすべて失ってしまうことである。カレンシーオーバーレイのような長期のヘッジでは、このような事態が起こる可能性は高い。一般的にはラチェットアップとして知られている権利行使価格の変更はこの欠点を補う理想的な戦略である。

オプションペイオフ戦略でははじめに決めた行使価格近辺が為替下落時の損益回避の中心点となるが、たとえば大きくドル高になり、その後ふたたび為替レートが元の水準に戻ると、ドル高から得られたはずの利益はすべて失われてしまう。このような事態を回避するために時期を見て行使価格の位置をずらす戦略が取られる。たとえば、最初のドル円の水準が100円/ドルであり、その時に行使価格も100円/ドルに設定したと仮定する。その後ドル高となり、最高値で126円/ドルまで為替が上昇すると、その近辺に行使価格を変更する。そうすることで、もしも為替がふたたび100円に戻る事態となっても、すくなくとも $126 - 100 = 26$ 円/ドルを丸々失う可能性は少なくなる。ただし、このような戦略は大きなトレンドが必要となるため、ドル円の市場では最長3年の年月が必要になる場合もある。大きなトレンドに1年半、そのトレンドが反転するのにまた最長1年半を要する可能性があるからである。ただし、この戦略は非常に有効であり、ドル高のときだけではなく、ドル安の場面でも用いることができる。ドル安ではヘッジ利益が得られる。ドル安に続く大きな谷のあとに、またはそれを見越して行使価格を下げることで、ヘッジ玉の買戻しの時期を早め、ドル高に転じたときにこのヘッジで得られた利益をすべて失う可能性をある程度回避するのである。

ただし、どちらにしても、行使価格の変更には費用を伴うために、頻繁な行使価格の変更は行使価格の変更から得られる利益をすべて失うことにもなりかねない。そのために、市場を十分に調査、分析する経済物理学等の技術とそこから得られた市場の特質をヘッジ費用に算出し直す金融工学の知識が必要となるのである。このどちらの技術が欠けていてもラチェティングは上手くいかない。むしろ損失の原因になることを決して忘れてはならないのである。一見単純でやさしく見えるこの戦略も実はリスクとリターンの絶妙なバランスの基で成り立っていないなければならないのである。

最新の実績値は www.quasars22.co.jp で公表されている。

カレンシーオーバーレイ実績値：原資産からの収益を含まず
出所：住商キャピタルマネジメント

シナリオシミュレーション

